

有機フッ素で水質汚染



京大・小泉教授グループ調査

動物実験で発がんとの関連などの毒性が指摘されている、有機フッ素化合物の一種による水質汚染が全国に広がっていることが京都大学の小泉教授（環境衛生学）らのグループによる調査で分かりました。検出されたのはパーフルオロオクタン酸（PF0A）という物質。調理器具や繊維製品などに焦げや汚れが付かないようにする加工や撥水剤などフッ素関連製品の製造過程から環境中に放出されると考えられています。

グループが2003年、北海道から九州まで約80カ所の河川水を調査した結果、全地点でPF0Aを検出。汚染の広がりが明らかになりました。ほとんどの地域は、数ナノグラム～十数ナノグラム/水1リットル中でした。しかし、兵庫県の猪名川で456ナノグラム、大阪市淀川では140ナノグラムと高濃度でした。

また全国10地域で計200人の血中濃度を調べた結果、京都、大阪、西宮各市の住民の濃度が他地域に比べて目立って高いことも判明しました。

日本弗素樹脂工業会では、排出削減取り組み中であり、日本の企業も、米環境保護局の自主的な取り組みへの参加呼び掛けに応え、2010年までにPF0Aとその関連物質の環境への排出や製品中への含有量を95%削減し、2015年には全廃することを目指して取り組んでいます。

<有機フッ素系化合物の主な用途>

防水剤（防水スプレー、紙類や繊維の表面処理）、防汚剤（カーペット、衣類、クリーナー）、界面活性剤（塗料、半導体製造時に使用）、消火剤・難燃剤（消火器、難燃加工製品）、調理器具（焦げ付かないフライパン）

当社では、PF0A化合物等の分析を受付けております。お気軽にお問合せください。

資料 2007年5月22日付 埼玉新聞報道資料

品質管理箇所 瀬田洋一郎